



「3・11の国だからこそ発信できる「生かされている」という文化」

今回のリオ+20は、私にとってあまり満足のいくものではありませんでした。国際会議と聞くと、何だかスゴイことのように思えるし、国連についても世界政府のようなイメージを持っている方が多いのではないのでしょうか。残念ながら、国連にそれほどパワーがあるわけはありませんが、共通の課題を議論する場、つまりプラットフォームとして存在していることはとても重要です。このプラットフォームをどう利用するかは、私たち一人ひとりの地球人の自覚にかかっていると思います。

リオ+20開催にあたり、日本はイニシアティブを取って「こういう地球サミットにしよう」という意見を言うべきだったし、また、政府も「持続可能な開発」の実現のために強力にコミットすることができたら良かったのですが……。というのも、日本が3・11を経験した国だからです。

あの大地震も「マザーアース・地球」からすれば、ちょっと寒気がしてブルッと身震いしたぐらいのことでしょう。それだけで、想像を絶するほどの被害を受けてしまいました。ここから分かったことは、私たちは生きている

特集 国連持続可能な開発会議 リオ+20における日本のNGO・NPO活動

6月20～22日の3日間、ブラジルのリオデジャネイロにおいて、世界191の国と地域から約3万人の参加を得て開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」。日本からも玄葉光一郎外務大臣を代表とする日本政府団130名をはじめ、企業やNGO・NPO関係者など大勢が参加しました。本号では、特集として野中ともよさんへのインタビュー、そしてリオ+20に参加したNGO・NPOの皆さんの声をレポートします。

Interview

すべての「いのち」あるもののために つながりましょう！

20世紀の高度成長から、21世紀の地球との共生へ。その途上で、東日本大震災を経験した日本。日本は世界に何を伝えるべきなのか、そして私たち一人ひとりができることは？ ジャーナリストで、NPO法人ガイア・イニシアティブ代表の野中ともよさんに、リオ+20の評価ならびに日本の進むべき方向について、お話を伺いました。

巻頭インタビュー	2
野中ともよさん ジャーナリスト、NPO法人ガイア・イニシアティブ 代表	
解説	6
リオ+20の成果とその将来 廣野良吉 先生 成蹊大学名誉教授、一般社団法人環境パートナーシップ会議 代表理事	
活動レポート	8
参加したNGO・NPO、そして企業の皆さんから Partner's Talk／助成団体レポート	10
全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会	
NGO・NPOサポートプログラム紹介	12
研修講座 海外派遣研修編	
地球環境基金のサポーター	14
地球環境基金をご支援くださった方々	

電子書籍、ムービーとなって、世界に発信されています。

当時、私の事務所は南青山にありましたが、ここに若い人たちが集まり、連日連夜、アイデアを出し合っていました。皆本心に熱心で、身も心も地球サミットに捧げていました。このようないきなり人はいないと前に進んでいけません。私はそれを縮めて「アホ」の力と呼んでいるんですが（笑）。

※詳細は、「地球サミット2012 Japan」のホームページを参照
(<http://www.earthsumit2012.jp/>)



【表紙写真】
石川県能登半島
「白米の千枚田」

2011年6月、国連食糧農業機関（FAO）により先進国では初めて、「能登の里山里海」と「トキと共生する佐渡の里山」が世界農業遺産（GIAHS）に認定されました。リオ+20のテーマである「グリーンエコノミー」の今後の推進を図る上で、そのモデルの一つとして世界に誇れるものです。

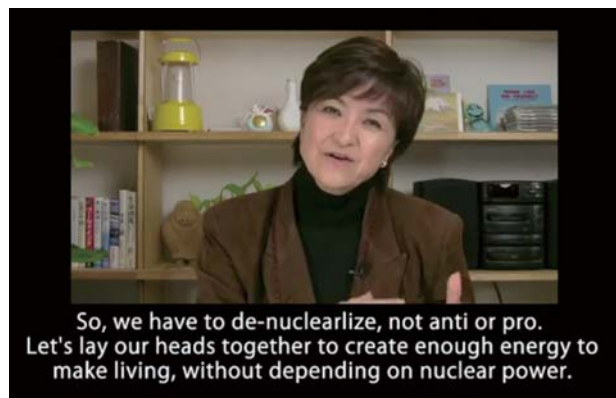
表紙写真：アフロ（白米の千枚田）、Climate Youth Japan（リオ+20に参加した若者たち）

のではなく、生かされているということ。3・11は、私たちが自然の懐、掌の中で生かされている存在にすぎないということを感じさせる、ウェイクアップ・コール（目覚めよという呼びかけ）だったと思うのです。

「どんな経済大国になったとしても、地震や津波は防げません。最先端だと信じていた原子力で多くのいのちを危険にさらすことになってしまいました。それを日本は経験したのです。だからこそ、地球という限られた資源の中で生かされていることに、もう一度目覚めましょう。日本では、木や風の中にも神様がいるし、道端の小さな花にもいのちが宿るといって『生かされている』ことを人々が信じられる伝統文化があります」といった、インパクトのある演説を日本政府には期待していたのですが……。

もう一つ、残念だったことはリオ+20が一般市民に大きな影響を与えることができなかったことです。マスメディアに積極的に報道してほしかったのですが、あまり大きく取り上げてもありませんでした。例えば、期間中、新聞の3面に囲みで「今日のリオ」とか「私も行きました」など、いろいろな人のインタビュー記事を書いたら、

3.11は今までの生き方に対するウェイクアップ・コール。



「Japan VOICES」でメッセージを述べる野中さん。
本ムービーはリオ+20のジャパンバビリオンでも放映された



東北へ届ける苗木を集めたメッセージツリー「いのちの木」の前で（「いのちの森2012」にて）



地球サミット1年前イベント「WorldShift Forum 2011—シフトを、日本から。」においてトークする、野中さんとワールドシフト・ネットワーク・ジャパンの谷崎テトラさん

「お金」から「いのち」へ、私たちの価値をシフトする

3・11というウェイクアップ・コールで、気付かされたことが2つあると思います。一つは先程お話しした、私たちは生かされている存在でしかない、ということ。それを環境という言葉で言うなら、環境Ⅱ大地の懐Ⅱ地球の営み、これは人知を超えたものです。

西洋で言う自然とは、向き合って克服し、征服する存在。カルチャー（文化）が、カルティベート（耕す）という言葉に由来するように、森を拓いて開墾することが文化であり、文明であると考えます。しかし私たちは、自然に対する畏敬の念を先祖代々受け継いでいます。ただ、この感覚を私たちは都市生活の中では忘れかけているように思います。

都市生活では「お金」が価値の規準となってしまうています。経済成長率、金融取引高、為替……。3・11は、お金という価値にからめとられた日本の姿、社会の仕組みを明らかにしました。私は「いのち」をテーマに活動しています。「いのち」を英語で訳すと、ライフ？ 英語のライフは人生、生

るのです。

「日本はどうなるのでしょうか」ではなく、「日本をどうしましょう」です。覚悟を決め、叡知を集めましょう。幸い、今の私たちは携帯電話さえあれば、世界とつながることができます。「いのち」が喜ぶ方向に、どんどん横につながっていきませんか。



ガイアユース企画のツアーに参加し、王滝村で間伐体験する若者（プロジェクトについては左記コラム参照）



ソーラーランタンプロジェクトで届けられたランタンに集まる子どもたち（プロジェクトについては左記コラム参照）

き方という意味でも使われますね。日本語の「いのち」という3文字は、エネルギーを使いながら動いている、呼吸していることを表していて、英語にはこれにあてはまる言葉がありません。

21世紀の日本は「いのち」が喜ぶ方向へ

大きな岩を見て、思わずびつたりとしがみついて「ありがとう」と言ってしまう。その岩に「いのち」が宿っていると感じる。こういう文化や感性は、環境問題の解決にいちばん大事な価値。だから、世界の中でこのような文化や感性を持っている日本の役割はものすごく大きくなっているのです。

21世紀、私たちが力を合わせて取り組まなければならないのは、このちっぽけな星の上でいただいている「いのち」を後世につなげていくこと。その「いのち」にとってかけがえのないものが4つあります。それが、水、大気、食料、そしてエネルギー。これを、もう一度原点にかえって考え改めなければ

「いのち」のために、今こそ日本の技術と叡智を。

ば、地球に住むすべてのものの「いのち」が危ない。

日本には、この4つをめぐる世界最先端の技術があります。これを再構築して、私たちは「サステイナブル・エコノミック・アニマル」になります。21世紀のアニマルは、小さなアリにもミミズにも「いのち」があることを知っていて、その代表としてサステイナブル・エコノミーを作るのです。

「前人未到で大変だけど、こっちの方向でやろうよ」と言えば、どれだけ日本の若者が元気になるか。人は何のために働くのかというと、もちろん頑張る給料やボーナスが上がれば嬉しけれど、それよりも「良い仕事してくれて、ありがとう」と言われることが嬉し。この仕事をやっていて良かったと思える瞬間です。人の「いのち」って、そういうふうにできてい

野中ともよさんが関わる環境プロジェクト

ソーラーランタンプロジェクト

インドの無電化村に太陽光充電式ランタンを普及させるプロジェクト。まず、村の中心にソーラーパネルを備え付けた充電ステーションを設営。ここで充電したランタンを村民に貸し出す。ランタンは、夜、子どもが宿題をしたり、女性が家事や手仕事をするのに役立っており、これまでに34村・1,700個のランタンが届けられた（2012年6月28日現在）。

http://www.gaiainitiative.org/gaia_village/

+1の森プロジェクト

長野県の木曽地方にある王滝村とパートナー協定を結び、2,600haの村有林内で森林整備を行うプロジェクト。下草刈りや間伐など、大学生を中心に構成されたガイアユースが企画する「王滝村+1の森ツアー」や、小中学生を対象に行われる「王滝村こどもキャンプ」などを通じ、村の人々との交流を深めている。

<http://www.gaiainitiative.org/forest/>

リオ+20

アースデイいのちの森

東京のと真ん中にありながら、オオタカなど約50種の野鳥をはじめ、多種多様な生物が棲息する「明治神宮の森」。ここを舞台に、環境フェスティバル「アースデイ東京」と同時に開催されるイベント。音楽やダンス、雅楽・神楽の演奏、トークショーなど、「いのち」への感謝と美しい自然とともに生きる喜びを分かち合うためのプログラムが2日間にわたり繰り広げられる。

<http://www.inochinomori.net/>

野中ともよさんのプロフィール

NHK、テレビ東京等で番組キャスターとして活躍後、2001年より日興フィナンシャル・インテリジェンス理事長、アサヒビール社外取締役、三洋電機社外取締役などを務める。05年7月～07年3月三洋電機代表取締役会長。また、財政制度審議会、法制審議会、中央教育審議会など政府審議会委員も歴任。07年8月、NPO法人ガイア・イニシアティブを設立、代表を務める。